

子どもも大人もワクワク! 子どもと創るつながる 協働型消費者教育の実践について



近江八幡市消費生活センター(人権・市民生活課)
主査 辻仁美

子どもも大人もワクワク! 子どもと創るつながる 協働型消費者教育の実践について

近江八幡市消費生活センター(人権・市民生活課)
主査 辻仁美

近江八幡市消費者教育紹介ページ

URL: <https://www.city.omihachiman.lg.jp/soshiki/jinken/shouhishakyouiku/index.html>

近江八幡市が取り組む消費者教育は、子どもを中心に地域と連携しながら、SDGs、環境、食育など、幅広い実践を行っています。

「これも消費者教育プロジェクト委員会」と題した教員向けのワークショップでは、先生方が消費者教育について学び、消費者教育の意義や活用方法を子どもたちに分かりやすく伝えるための議論を重ね、実践授業へとつなげています。

消費者教育の重要性について学び、次世代を担う子どもたちの育成に尽力する取組について、近江八幡市消費生活センターの辻仁美氏にお話を伺いました。

情報共有や教材体験のための教員向けワークショップを開催

——近江八幡市消費生活センターのご紹介をお願いいたします。

近江八幡市消費生活センターでは、市民の皆さまから寄せられた、契約や商品の購入等のトラブルに関するご相談についてお聞きし、問題解決に向けた支援をしています。また、市内自治会やふれあいサロン、放課後児童クラブ等からの依頼をもとに、消費者教育出前講座(消費生活出前講座)を開催しています。

その他、市内在住・在学の小学生親子を対象とした「消費者教育体験型プログラム(SDGsこども特派員)」、市内幼保・小中学校との連携・協働を目的とした「これも消費者教育プロジェクト」等を実施しています。

——「これも消費者教育プロジェクト」について教えてください。

近江八幡市消費生活センターでは、消費者教育の推進のため、平成30年度から市内小中学校の教員等を対象とした情報共有及びワークショップの場を設けており、現在、「これも消費者教育プロジェクト委員会」として活動しています。

令和4～5年度については、武佐小学校を消費者教育モデル校として指定し、消費者教育の更なる推進を目指しました。令和5年度は、武佐小学校の全学年で消費者教育に係る理解の深化に取り組み、2年生、4年生、6年生において実践授業を行いました。その成果をまとめたリーフレットが「やったことはホンマもん 消費者教育 だけど視点が大事」であり、2年間の集大成となっています。

令和6年2月1日には、「消費者教育フェスタ in 近江八幡(主催:文部科学省)」が開催され、武佐小学校の取組についても事例報告がなされました。合言葉は「いつもやってることやん!」。パネルディスカッションでは、武佐小学校の村井校長先生(当時)より、「連携・協働の鍵は、子どもだけでなく教員、関わる人全員がワクワクすること」「地域の力によって子どもたちが健やかに育つ」とのメッセージが発信されました。



◀▼「地域連携による消費者教育」をテーマに行われた「消費者教育フェスタ in 近江八幡」の様子。



——教員向けワークショップの内容を教えてください。

令和6年8月27日に「これも消費者教育プロジェクト委員会(教員向けワークショップ)」を開催し、昨年度の振り返りや今年度の消費者教育シンポジウム(主催:(公財)消費者教育支援センター)について議論したほか、消費者教育教材の体験会を行いました。

その折、本委員会のメンバーの1人であり、消費者教育コーディネーターである甲津氏からは、「消費者教育の幅広さを感じ取ってもらいたい。消費者教育とは、悪質商法や詐欺被害に遭わないようにするだけではなく、生きていく上で大事なことであり、その幅広さを知ってもらいたい。消費者教育を通して、個別の学びから協働的な学びへとつなげたい。分かればよい、ではなく、自らの生活を変えていくところまで結びつきたい」との言及がありました。

消費者教育教材の体験会では、参加者全員で「貿易ゲーム」(*1)を行った他、「なんでやろう?食品ロスカードゲーム(大阪府環境農林水産部流通対策室)」、「気候変動適応への道(国立環境研究所)」、「消費者アクションゲームⅡ((公財)消費者教育支援センター)」等を行い、非常に盛り上がりました。

参加した教員からは、「楽しく学べると思ったが、知識があつてこそだと感じた。知識がないと、楽しいだけで終わってしまう。どこの場でどうやって活用するか、見極めが必要。」といった意見もあり、教材の活用方法については一考の必要があるとともに、教科の横断や幼小中での積み上げ、横のつながりと縦のつながりが大事であると感じました。また、授業も大切ですが、教員同士の情報共有や交流の積み重ねこそが消費者教育の確かな推進力になるとも感じました。



教員向けワークショップで「なんでやろう?食品ロスカードゲーム」を行っている様子。

体験会で使用した消費者教育教材

なんでやろう?食品ロスカードゲーム／制作:大阪府環境農林水産部流通対策室

<https://www.osaka-foodlosszero.jp/game/index.html>

気候変動適応への道／制作:国立環境研究所

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/activities/sugoroku/index.html>

消費者アクションゲームⅡ／制作:公益財団法人消費者教育支援センター

<https://www.consumer-education.jp/publication/cag2.html>

(*)1) 貿易ゲーム:「貿易ゲーム」は、1982年にイギリスのNGO団体であるクリスチャン・エイドが世界経済を学ぶために制作した、自由貿易を疑似体験するシミュレーションゲームです。ゲームを通して、商品の値段や需要と供給の関係、賢い買い方などを体験的に学ぶことができます。

——学校ではどのような授業を行うのでしょうか？

毎年同じ内容・同じ教材を使用するというのではなく、その都度、「ねらい」「消費者として身に付けたい力」等をもとに、実践授業を展開してきました。

下記は、令和5年度における武佐小学校で行った授業の内容になります。

2年生(生活科)

【内容】

「うごくうごくわたしのおもちゃ」(参考:東京書籍 生活科教科書)

【本時のねらい】

計画書をもとに、作ったおもちゃで遊んだり、友だちが作ったおもちゃと比べたりしながら、改良点を伝え合うことができる。

【消費者として身に付けたい力】

おもちゃを作るときに、相手(本授業では1年生)を意識し、危険なことはないか、遊ぶ相手に合っているかを考えながら、どのようなおもちゃにするか、どんなルールにするかを選択できるようにし、くらしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づける力を養う。

【児童の授業振り返り・感想】

・1年生に喜んでもらえて嬉しかった。

4年生(社会科)

【内容】

「ごみの処理と活用～そのごみ、どこへ～」(参考:日本文教出版 社会科教科書)

【本時のねらい】

近江八幡市のごみの総排出量グラフを見て、減少していることに疑問を持ち、自分の体験やこれまでの学習をもとに、その理由を話し合うことができる。

【消費者として身に付けたい力】

自分たちも、物を消費している社会の一員だという自覚を持つと共に、ごみを減らすための工夫を考え、持続可能な社会を目指した学びを自分たちの生活実践に生かすことのできる力を育てる。

【児童の授業振り返り・感想】

- ・ごみ問題に取り組むため、5R(*2)を実践しようと決めました。帰宅後すぐに家族に話したところ、家族もリユースを始めました。
- ・ごみを減らすための工夫をグループで相談するとたくさんありました。色々なお店もたくさん工夫をしていることがわかり、びっくりしました。私も5Rを実践します。

.....
(*2) 5R: Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)、Refuse(リフューズ)、Repair(リペア)という
ごみを減らすための5つの行動を意味する言葉。

6年生(総合的な学習の時間)

【内容】

「よりよい社会を築くために」(参考:東京書籍 国語科教科書「世界に目を向けて意見文を書こう」、発展教材「貿易ゲーム」)

【本時のねらい】

貿易のしくみから社会の課題について自らの体験を通して理解することができ、自らが感じた課題とフェアトレード等を照らし合わせながら、よりよい社会にしていけることを考えることができる。

【消費者として身に付けたい力】

情報リテラシー、商品の安全性理解、危険を回避する方法、批判的思考力、他者との協調性を消費者教育を通して学び、賢明な消費行動を行える力を育てる。

【児童の授業振り返り・感想】

- ・貧困をなくすために、まずは身近なことから取り組んでみようと思う。例えば、周りの人にフェアトレードについて説明し、フェアトレード商品を購入してもらえようようにしたい。時間がかかるかもしれないけど、貧困問題の解決の助けになると思う。
- ・フェアトレード商品を買わない理由が「他の商品よりも値段が高いから」ということを知った。私は自分への頑張ったご褒美としてフェアトレード商品を買うのがよいのではないかと思った。自分へのご褒美で、世界の子どもたちを幸せにすることができるから。
- ・買える範囲で少しずつ買って、できるだけ家族などに広めたら、少しでも苦しむ人が少なくなる。身近な人に広めることで、少しでも多くの人に知ってもらってフェアトレード商品を買う人が増えて貧困が少しずつ減って、児童労働が減り、世界の環境が少しでも変わるかなと思った。
- ・少し値段は高いけど、フェアトレード商品を買うことで、平等な世界になればと思う。

本授業の詳細は、下記URLから確認できます。

「これも消費者教育」プロジェクト2022 武佐小学校での取組
<https://www.city.omihachiman.lg.jp/soshiki/jinken/shouhishakyouiku/koremoshohishakyouiku/24820.html>

近江八幡の地域一体型消費者教育

——今後の展望を教えてください。

協働型消費者教育の輪を広げ、幼保・小中学校の縦の連携(子どもの発達と学びの連続性)がより一層深まることを期待するとともに、近江八幡市の消費者教育の取組について市内外の皆さまにも知っていただけるよう、今後は周知・広報にも力を入れていきたいと考えています。

「消費者教育週間」のような期間を設け、産学官民が一体となって消費者教育の推進に取り組むことができればとも思っています。

——消費者教育を担う先生方や、一般消費者の皆さんにメッセージをお願いします。

消費者教育は“生きる力を育むための教育”とも言われ、自立した消費者、そして、持続可能社会の担い手を育むための教育です。限りある資源や地球環境に配慮し、持続可能な生産消費やライフサイクルのあり方を推進するSDGsの理念とも共通するものであり、消費者市民社会の実現によって目指す社会は、SDGsが目指す社会と同じであるとも言えます。これまでの取組を通して、消費者教育の要素は私たちの身近なところにたくさんあり、少し視点を変えるだけで消費者教育の実践につながるのだと理解しました。

近江八幡市における消費者教育は、子どもを中心に、学校、市民、高齢者や障がい者がつながる、地域一体による連携・協働を大切にしています。市総合計画に掲げる「人がつながり 未来をつむぐ 『ふるさと近江八幡』」の実現に向け、引き続き、多様な主体とともに、協働型消費者教育の実践を進めてまいります。

——ありがとうございました。

もっと知りたい方はこちら!

これも消費者教育プロジェクト(教員向けワークショップ):

<https://www.city.omihachiman.lg.jp/soshiki/jinken/shouhishakyouiku/koremoshohishakyouiku/index.html>